

自己評価書の作成

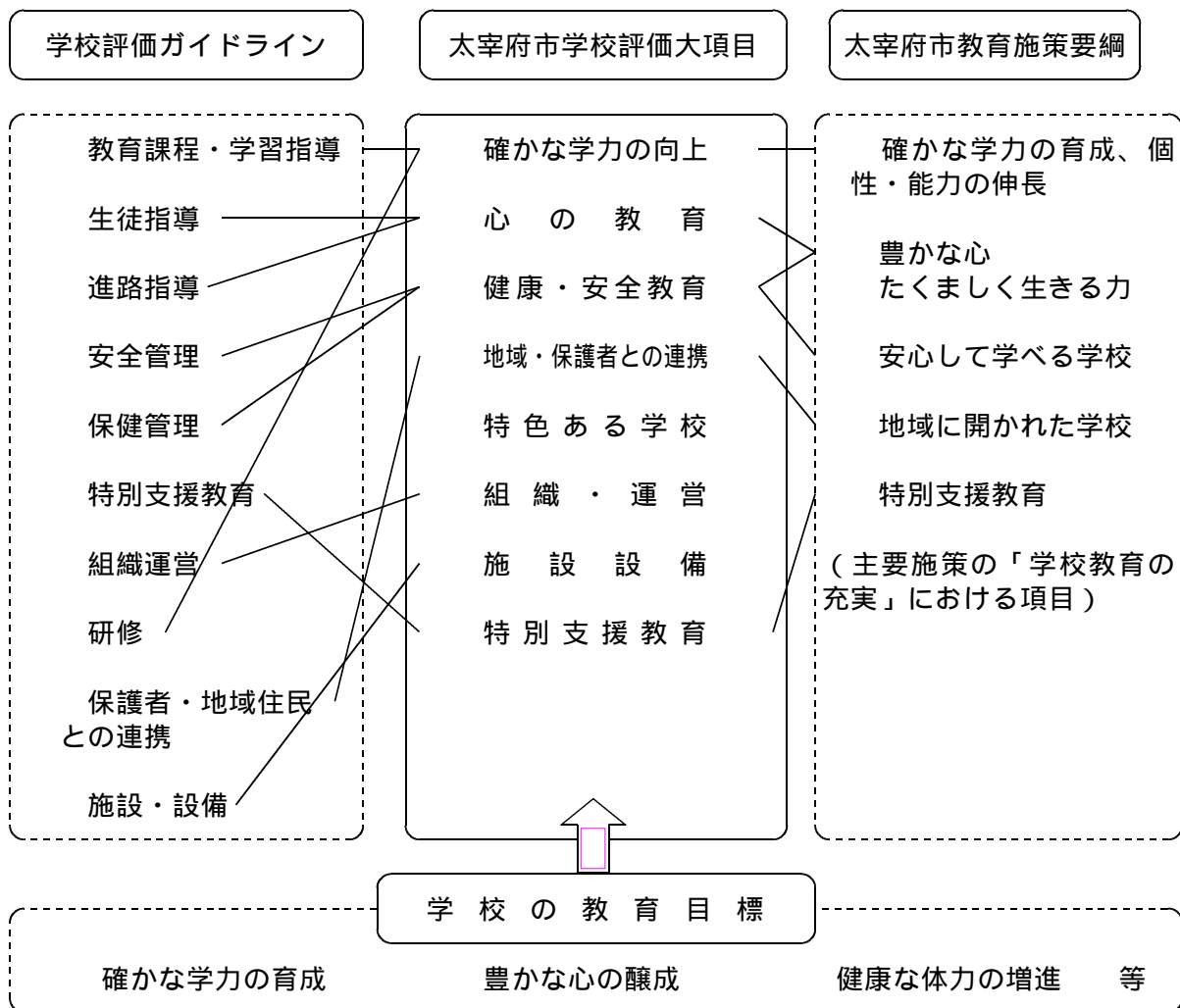
各学校は、教育目標の達成状況、そのための取組状況を評価する項目や指標を設定します。その基本になるのが、学校の教育目標です。学校経営・運営の根幹である「学校の教育目標」の達成状況を評価する上で必要な内容を評価項目にしっかりと反映させることが大切です。

また、「学校評価ガイドライン」で、全国的に一定水準の教育の質を保証しその向上を図る観点から評価項目の参考例として示している10の項目や、太宰府市教育施策要綱における主要施策「学校教育の充実」で示している『確かな学力をはぐくみ、個性や能力を伸ばす教育の推進』『豊かな心をはぐくむ教育の推進』等、5項目の推進内容をもとに各学校ごとに評価の大項目を設定します。

資料5は、太宰府市学校評価大項目の例です。『確かな学力の向上』『豊かな心の育成』『健康安全教育』『地域・保護者との連携』に関しては、各校におよそ共通した大項目と考えられます。また、『特色ある学校』『特別支援教育』等、各学校の実情や特色に応じた大項目も設定できます。

各校で考えられた大項目ごとに、さらに中項目を考えます。資料6は、大項目ごとに考えられる中項目の例です。それぞれの学校で大項目の目標を達成するためには、中項目のレベルで優先的にどこに力点を置くかを考えていきます。また、その際、目標達成のための方策についての「努力指標」と努力した結果としての児童・生徒の姿等の「達成指標」から評価していくことも大切です。

資料5 太宰府市における学校評価大項目の選定



資料6 学校評価中項目（指標）例

大項目例	中項目（指標）例	
確かな学力の向上 ……	教育課程の編成・実施 総合的な学習の時間 学力向上プランの推進 学習規律と学習習慣の確立	授業の工夫・改善 特別活動の充実 学習の意欲化・日常化 校内研修の充実
心の教育 ……	道徳教育の推進 人権・同和教育の推進 キャリア教育の実施	豊かな体験の充実 生徒指導の充実
健康・安全教育 ……	健康教育の推進 食育教育の推進	安全教育の推進 部活動の指導
地域・保護者との連携 ……	保護者との連携 教育委員会、関係機関との連携	地域との連携 他校との連携
特色ある学校 ……	国際理解教育の推進 環境教育の推進	情報教育の推進 福祉教育の推進
組織・運営 ……	責任・運営体制の整備 サービス監督の状況	情報管理状況 学級経営状況
施設設備 ……	施設設備の活用状況	施設設備の点検状況
特別支援教育 ……	特別支援教育の推進	

自己評価書については、まず、大項目ごとの観点別評価シートを作成します。資料7は本市における観点別評価シートの基本様式です。中項目ごとに小項目と具体的方策を記入します。また、評価に客観性をもたせるために方策ごとに達成状況に関する評価基準を設定し、そのための評価方法も記入します。

学校評価で比較的に陥りやすいこととして、評価の集計・分析・改善について、一部の教職員に作業が集中してしまうことです。学校評価を効率的にすると同時に、学校を活性化させるために校務分掌組織を効果的に機能させることが大切です。そこで、本市では、中項目ごとに評価担当者を決め（中項目の欄に担当を記入）、「小項目と具体的方策」「評価基準」「結果の分析と改善の方向」等について担当者が中心となり全教職員で取り組むようにします。このことにより、校務分掌組織が機能化され、学校評価が学校の活性化につながるものになります。

資料8は、福岡教育大学 大坪靖直 教授（太宰府西小・中学校 学校関係者評価委員長）が示された観点別評価シート例です。このシートもP-D-C-Aサイクルを基本とした内容で構成されています。大項目別の「現状」「目標」「方策」「評価結果」「改善策」のサイクルが見られる評価シートを作成することが大切だと考えます。

資料9は、観点別に評価した内容を1枚のシートに表した全体評価シートの基本的な様式です。このシートにより、評価結果を基にした学校の全体像が明らかになります。

学校関係者評価委員に自己評価書を説明する際には、それぞれの評価結果の根拠を示す参考資料を提示すると評価の妥当性を示すこととなります。

作成された自己評価書は、学校関係者評価委員会へ提出するとともに設置者へも提出します。

資料7 観点別自己評価シート(例)

確かな学力の向上

前年度の成果と課題		本年度の目標						
大項目 確かな学力の向上	中項目と指標 【授業の工夫改善】 1 子どもの主体的授業づくり 子どもが主体的に問題を解決していくことのできる授業づくりを行う。 (統括学年主任)	中項目評価	小項目と具体的方策 【学習過程】 子どもが「めあて」と「まとめ」をつくる授業 【授業構成】 自力の活動：交流：支援の比が1：1：1の授業の実施	小項目の評価基準		評価方法 ・教師アンケート	参考資料	評価結果を受けた課題と改善策
				4	8割以上の授業で実施している学級が8割			
				3	8割以上の授業で実施している学級が7割			
				2	8割以上の授業で実施している学級が6割			
				1	「2」以下			
				4	1日で1時間以上			
	3	2日で1時間以上						
	2	3日で1時間以上						
	1	「2」以下						
	【教育課程】 2 学習の基盤づくり 授業時数の確保と週時制の工夫により、「子どもができる」「わかる」基盤をつくる。 (教務主任)	【授業時数の確保】 週案作成による自己管理と点検 【週時制の工夫】 朝の30分を基盤の学習時間とする 【チャレンジ週間】 学期末に算数チャレンジ週間を実施	小項目の評価基準		評価方法 ・週案による時数確認 ・教師アンケート	参考資料	評価結果を受けた課題と改善策	
			4	全ての教科で標準時数を上回った学級が8割				
			3	8割以上の教科で標準時数を上回った学級が7割				
2			8割以上の教科で標準時数を上回った学級が6割					
1			「2」以下					
4			全職員が確実に実施した					
3	8割以上の職員が確実に実施した							
2	6割以上の職員が確実に実施した							
1	「2」以下							
4	プリント15枚以上の児童が8割の学級が8割							
3	プリント15枚以上の児童が8割の学級が7割							
2	プリント15枚以上の児童が8割の学級が6割							
1	「2」以下							
【校内研修の充実】 3 校内研修の充実 具体的な教育課題に即した校内研修の充実を図る。 (研究主任)	【授業研究会の実施】 全職員が年1回以上の研究構想に基づいた研究授業を行い日々の授業に生かす 【校内研修体制の確立】 各部の組織と研修計画を明確に見通しをもって研修を行う	小項目の評価基準		評価方法 ・教師アンケート	参考資料	評価結果を受けた課題と改善策		
		4						
		3						
		2						
		1						
		4						
3								
2								
1								
【授業の楽しさ】 【テストの結果】	【授業の楽しさ】 【テストの結果】	小項目の評価基準		評価方法 ・児童アンケート ・学期末テスト結果	参考資料	評価結果を受けた課題と改善策		
		4	8割以上の児童が授業が楽しいと回答した学級が8割					
		3	8割以上の児童が授業が楽しいと回答した学級が7割					
		2	8割以上の児童が授業が楽しいと回答した学級が6割					
		1	2以下					
		4	学期末テスト85点以上が学級の8割以上・・・全学級の8割					
3	学期末テスト85点以上が学級の8割以上・・・全学級の7割							
2	学期末テスト85点以上が学級の8割以上・・・全学級の6割							
1	2以下							

資料 8 観点別自己評価シートの例（大坪教授提示分）

観点 5 特別支援

現状	特別支援コーディネータ - の研修は 2 回実施したが、全職員を対象とした研修は未実施である。各担任による気になる児童のリストアップの段階にあり、各児童の発達障害の特徴に基づく支援計画策定が課題である（資料 1 - 1）。
年度目標と評価指標	特別支援教育にかかる校内支援体制を整備するとともに、全職員に対する校内研修を実施する。また、特殊学級と通常の学級との交流および共同学習を促進する。 [指標 1] 全体研修を 1 回、学年単位の打合せを毎月実施する。 [指標 2] 特別支援コーディネーターと担任で、気になる児童の特徴を把握し、支援計画方針を策定する。 [指標 3] 医療、福祉など関係機関との連携を促進するために、年 3 回の連絡協議会を開催する。 [指標 4] 各児童の特性に配慮して、特殊学級と通常の学級との交流回数を 10% 増加させる。
前期の取り組み	全体研修を 6 月に実施し、学年単位の打ち合わせを計 15 回実施した（資料 5 - 1, 2）。特別支援計画が必要と判断した児童の 8 割について、支援計画を策定した（資料 5 - 3）。学外機関との連絡協議会を 9 月に計画している（資料 5 - 4）。特殊学級と通常の学級との行事的交流は予定を上回って実施したが、交流学习の回数が予定を下回っている（資料 5 - 5）。
前期自己評価	4 : 予定を上回っている 3 : ほぼ予定どおり 2 : やや遅れている 1 : 遅れている
改善策 1	学年単位の打ち合わせを確実に毎月実施し、用配慮児童全員の支援計画を策定し、学外機関との連絡協議会（9 月に予定）で個別の対応について審議する。特殊学級と通常の学級との交流内容については、児童の特性に配慮しつつ推進する。
後期の取り組み	
年度末の自己評価	4 : 十分達成した 3 : 達成した 2 : ほぼ達成した 1 : 達成できなかった
次年度の改善方針	

資料9 全体自己評価シート(例)

1 学校の教育目標

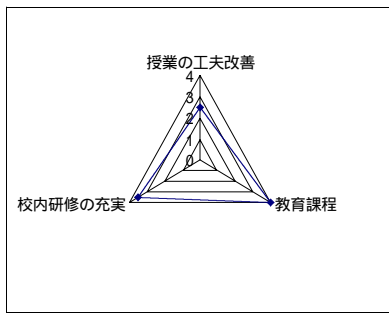
2 本年度の経営の重点目標

} 子ども像から述べてください

3 重点目標達成のために

1
2
3
4
5

} 大項目と一致させてください



家庭や地域との連携
総合評価

確かな学力の向上
総合評価

豊かな心の育成
総合評価

健康・安全教育
総合評価

育
総合評価

3 評価結果を受けた成果と課題